

1. 開会

事務局より開会のあいさつ。審議会開催に当たり、13名中12名の委員の出席を確認し、本会議が成立していることを確認。

2. 町長あいさつ

みなさん、こんばんは。夜分お疲れのところ、ご出席を頂きまして誠にありがとうございます。また、今回の長期総合計画策定審議会の審議委員としてみなさまにお願いをさせていただいたところ、ご快諾を賜りまして誠にありがとうございます。

ちょうど今から10年前に、平成15年に基本構想、17年3月に長期総合計画を策定して様々なまちづくりに取り組んでまいりました。平成17年10月に花園村との合併を経まして、今日に至っています。

10年を経過したなかで、これからのまちづくりの基本となるべき長期総合計画を策定していきたいということでございます。

皆様のご意見を頂きまして、このまちづくりの基本となる基本構想、基本計画を策定していきたいというふうに思います。これから来年の3月に向けまして、よろしくお願いを申し上げます。

3. 委員紹介（自己紹介）、事務局員紹介

出席委員12名自己紹介

町長、副町長含め事務局員5名紹介

4. 長期総合計画策定審議会制度について

事務局よりかつらぎ町長期総合計画策定審議会制度について説明

5. 役員選出（会長、副会長）

会長に藤田委員、副会長に岡村委員が選出される。

（藤田会長あいさつ）

ただいま会長という大役を仰せつかりました和歌山大学の藤田でございます。

私は観光学部地域再生学科というところで教諭をしておりますけれども、私が感じている農山村をめぐる積極的な変化というものをお伝えしておきたいと思います。観光学部地域再生学科、全国の国立大学のなかでここだけしかありませんので、本当に全国から学生たちが集ってきます。そういう学生たちを和歌山県のフィールドをお借りしていろんな教育、研究の機会を頂いているわけですが、このかつらぎにも何度か学生たちを連れてくる機会がございまして、非常にかつらぎは魅力的なところだという風に若い人たちは言うんですね。

最近大学の入学試験ですけれども、志願者数が唯一右肩上がり伸びている学部があります。この7年間落ちることなくずっと右肩上がり志願者数が増えているのが農

学部なんですね。昔ながらの「農」という名前のついた農学部、この学部だけが一貫して志願者が増えている。一時はバイオテクノロジーなどに関心のあった学生が農学部を目指した時代がありましたが、今は環境問題や食糧問題など、地域の根ざしたところに関心を持った学生たちというのが非常に育ちつつある時代、そういう点でいうと高度成長期とは少し違う価値観や考え方をを持った世代が、今社会へ羽ばたこうとしている時代なのかなと思います。

問題は、農山村で生まれ育った子供たちだけが農山村を担っていくというこの仕組みはおそらく、少子高齢化、人口減少社会のこれからの日本がたどれるわけではないわけですから、外からの若い人たちの力を借りたりしながら日本の地域を守っていくということがこれからたぶん必要になるだろうなということ、大学において日々感じております。

ぜひとも、4次の計画の大きな流れの中にそういう風が変わり始めているということも生かした中身になればなという風に思っております。どのように議論をリードできるかというのは心もとない限りではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

6. 諮問

町長が諮問書を朗読し、藤田会長に諮問書を手渡す。

7. 議事

(藤田会長)

確かに井本町長より、諮問を頂戴いたしました。この趣旨に則りまして実りある議論の場にしたいと思っております。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

本日の議事ですけれども、お手元の次第書きにございますように、大きくは2つございます。まずは一つ目の審議会の傍聴、公開についてという議事ですけれども、これにつきましては、先ずは事務局からまずご説明いただきたいと思っております。

(1) 審議会の傍聴（公開）について

(事務局)

事務局より審議会の傍聴及び情報公開についての考え方を近隣市町村の状況も併せて説明。

(藤田会長)

ありがとうございます。周辺自治体の情報も含めて事務局から情報提供いただきましたけれども、一つ目の審議会の傍聴、公開について委員の皆さんからご質問、ご意見ございませんでしょうか。

私も大阪、京都をはじめとするいくつかの審議会に関わっていますけれども、事務局からご説明いただいたような、特段の理由がない限りは原則公開という流れがいま

来ているのかなという風に思いますので、あえて認めないという理由はおそらくないのではないのかなと思います。

そういうことからすれば、事務局の方からご提案いただいたような審議会の傍聴については、原則公開ということではいかがかなと思いますがどうでしょうか。

(委員一同)
異議なし

(藤田会長)

では、基本的にはこの案件については、原則公開という方向でお願いします。ただ広報の方法等についてはご配慮いただくということでお願いしたと思います。

(事務局)

傍聴者の人数として、会場等の制限から、概ね10名程度としたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

(藤田会長)

第1議事でございます審議会の傍聴につきましては、繰り返しになりますが審議会の議事に支障がない範囲で、10名程度というものを念頭に置きながら原則公開で臨むということをご確認を頂きたいと思います。

続きまして、2つめの議事、これが本日第1回目の審議会の主要議題でございます。第4次かつらぎ町長期総合計画の策定方針について、この方針を受けながらより具体的な議論を進めていくことになろうかと思っておりますので、先ずはお手元の資料に基づきまして事務局からご説明をお願いしたいと思います。

(2) 第4次かつらぎ町長期総合計画の策定方針について
事務局が資料に基づき説明

(藤田会長)

ご説明ありがとうございました。時間的には少ない時間ではありますが、基本的な考え方と併せて、3次から4次までの間に何ができてどういうところが積み残されてきたのかというようなお話もいただきましたし、中間的に住民から答えていただいたアンケートのご紹介もございました。

今回初めて住民公募という形で入っていただいている方のご意見を頂くという非常の貴重な機会だと思います。それぞれの団体から来ていただいていると、たぶん若い人は話しにくいだろうなと思っておりますので、よろしければ少し若い方から、今回住民公募で来ていただいた方というのは、これまでの町行政に対するいろんな思いをお持ちで今日おいでいただいていると思っておりますし、定住促進というものを若い世代の方が

どうお考えなのか、まずは聞かせていただいて、策定方針の考え方に関わる意見交換をしてみたいと思います。

今の計画の基本的な考え方についてご意見がありましたらお願いします。

(委員)

僕がこの会に応募したきっかけというのは、たまたまかつらぎ町のホームページを見て、こういう審議会があるというのを知って応募したわけなんです。なんとか和歌山県あるいは住んでいるかつらぎ町ですとこれから先も住み続けたいし、仲間もいるので、微力ながらも力になればという想いで応募させていただきました。

僕の周りの人間は、残っている人間というのは、みんななんだかんだ言いながらこの町が好きなんです。田舎といいながら出ていかずに住んでいるんですよね。そういう中で、なんとか出て行った人たちも戻ってきたくなくなるような感じにできればいいなと思うんです。

今ある人材、人間の力を利用したソフト面でどうにかできていったらいいんじゃないかなと思っています。

(藤田会長)

今日は、最初の考え方について意見を頂戴しているところですので、具体的な計画の審議が始まった段階で、是非そういったソフト面での仕組みづくりをいうことでご意見を盛り込んで発言していただけたらと思います。

(委員)

この町ならではの特色を生かして、まちづくりというのを僕も微力ですけども、何か一つアイデアを出せればと思い、応募させていただいたんです。

僕らまだまだ若いと言われる年なんですけど、何か希望を見つけて生きていけるような町になってくれたらいいなと思いますし、何か一つお手伝いできればいいなと。

(藤田会長)

ありがとうございました。では、次の方お願いします。

(委員)

私も主人も県外出身です。もともと、主人の祖父がかつらぎに住んでいたの、そこにおじいちゃんのとこに孫が移住してきたということで、私はこの町は住みやすいところだなと思っています。

子育てをしている世代なので街に住んでいたらいろいろ物騒なことが多いですけど、かつらぎは穏やかでのんびりしてて、子育てするにはすごくいいとこだと思いますし、給食も始まって医療費も無料だし、いいとこだなと思っています。

しかし、山に住んでいるのでほんとに子どもがいなくて、学校もなくなったし、地

域限定で見ると大変な状況で10年間の計画を立てるということですが、10年後には住んでいる地域には小学生はいないんじゃないかというぐらい厳しい状況です。

山や田舎に住みたいという人はたくさんいるんです。でも物件がないとか、土地がなくとか、借りられる家がなく住むのを断念したり、せっかく移住してきても地域とうまくいかなくて違うところへ行ってしまう人も結構います。

そういう田舎暮らしや農業をしたいとかニーズはあるので、そこをカバーしてくれるような仕組みを作れたらと思います。

そういう田舎に住みたいと人もたくさんいるので、そういう人たちに対して何かできるようなことを考えていただけたらなど、私個人の意見としてそう思っています。

(藤田会長)

ありがとうございます。私もあちこちの農山村の活性化に関わる委員会とかに出て、話を聞くことがあって、どうも最近共通している傾向があって、隔世継承というんですけれども、おじいちゃんおばあちゃんの代を見て孫たちが戻ってくるという、この動きがどうもあちこちであるんですね。

親の時代というのは、まさに高度成長期に、経済成長で外へ出た人たちなんですね。そのお孫さんというのは、おじいちゃんおばあちゃんを見て育ってきた、その世代が農家になりたいとか、おじいちゃんの志を継ぎたいとかいう声が全国各地の農村で今隔世継承という言葉があるくらい起こっている、今伺ったなかでもそういった声が聞かれるんじゃないかなと思うんですね。

そういう点でいうと、確かに若い人が一時気は出ていくかもしれないけどもそれを必死になって食い止めるよりは、出て行った人たちでも帰ってきたくなくなるような仕組みをどう作っておくのかという発想、ミスマッチがあってかつらぎに住みたいと思っている人でも土地と家はあっても盆正月に帰ってくるから貸せないというような話のままになっているかもしれない。その時にどうするのか。

長野県の飯田市は、ワーキングホリデーという仕組みをつくって3泊4日のお試し期間なんかで農村暮らしをしたいという都市住民を受け入れて、お互いに見極めながら、マッチングさせて定住、移住に結び付けていく、非常に定着率の高い仕組みですよ。こういうことなんかもソフト的な事業としては考えていく必要があるのかもしれない。そのような気がしました。

各団体から来ていただいていますので、お話しいただいて、最後には副会長におまとめいただくということで今日はお願いしたいと思います。

(委員)

計画の中で企業と雇用ということで、人がたくさんいるとうまく回っていくというか循環、雇用が生まれる輪の中で人が採用できてということもあるんですけれども、よそと比較してということで、橋本なんかとは比較すると、工場をつくっても人がいないと。逆にそういうことが結構あるように聞きます。

幸い地場企業が、紀の川筋のなかでも立派な会社が結構ある地域ですので、あとは人が本当に、人口が増えれば企業ももっと育っていくんじゃないかなという部分もあります。

計画を審議していく中で僕も意見を言わせていただいたらありがたいかなと思っております。

(委員)

かつらぎ町の紀北分院が変わってきてくれてますので、安心して住める、病気になった時に安心して生活できないということでは困りますので、みんなで協力して住みやすい町になるように、健やかに過ごせるのが一番ですので、そうなるように考えています。

(委員)

私自身は考えていますのは、人口の減少、若者の定住、農業の後継者が少なくなってきたりとか、それは収入がないから生活していられないとおっしゃっていましたが、住みよいまちにして、今いろいろ聞かせていただいて、若者を止めるのではなくまた帰ってきてもらえる、そういう町にしていくことが大事なんだなと思いました。

(委員)

今年の3月をもって山間部の小学校が統合されました。そして笠田小学校や渋田小学校へ新城や志賀や四邑の子どもさんが、スクールバスで通っていると思うんです。

いろんな条件面、しんどい面あると思うんですけども、統廃合ということは人口減に歯止めをかけないという形になるんじゃないかなとそんなふうに思っております。ですから先ほど企画公室の中の人口減に歯止めをかけるとか若者が住みやすい町にというお話がありましたけれども、それとはちょっと反対になっているのではないのかなと思いつながら聞かせていただきました。

(委員)

奈良県の曾根村という村があるんですけども、そこから大阪の市内へ行く距離と、このかつらぎ町へ行く距離を比べると向こうのほうが近い。行けばわかるかと思うんですが、すごい山の中なんですけどすごく整備された道が通っている。だから大阪首都圏へ行くのはすごく近い。

さっきも話がありましたが流出を食い止めるとか、たぶん必要ないと個人的に思います。

なぜかという、京奈和もでき、480号もトンネルが開通しますと、大阪首都圏へ非常に近い。今通勤で難波へ行こうと思えば1本しか道がないわけです。ところが、車で行くと山を越えるとすぐ行ける、関空近い、だから住むのはこっち側で住んで仕事は都会でしょうと。それともう一つは、さっき曾根村の話をしましたけども、首都

圏から近くなると今まで産地が遠いとどうしても農産物というのは送らないとはけない、なぜかというと来てくれないから、届けないと売れない。

ところが、トンネルが抜けて道が太くなるとどんどん産地へ来やすくなりますから、かつらぎ町はインフラが、われわれが想像するよりももっとすごいスピードで、都会の真横にあるすごい便利な地域ということになると思います。

平成29年までの計画というのは、5か年計画の途中で山が来る、あとは検証に2年を使うというような形になると思うので、できたらこの計画については、高齢化、来てくれるまち、こっちで住んで働きに行くまち、そんなシステム作りができればなと思います。

(委員)

消防団の平均年齢がだんだん高くなってきているということ、また、かつらぎ町の場合定年が65歳という、この近辺の町でも一番定年が低いと思います。それでもかつらぎ町は頑張っていると思いますが、他のところへいけば70歳を超えて消防へ入っている人もいるとのことでございます。そして自営業で消防へ入ってもらっている人が少なくなってきたので、実際の活動時に支障が出ないか危惧しています。

また、皆さんが言われた通り、四郷のトンネルが開通するというのであれば、まだまだ、かつらぎ町にも、農家に関しても、産業に関してもいろいろ希望が出てくると思います。

(委員)

学校は、少子化によって児童数がずんずん減ってきて学校の機能を十分発揮できない状況にあります。そのようなことから、少人数学級という問題もありますけども、少人数ではどうにもならない問題もあります。そして子供に教育をつけたら、その子供が地元に残っていただいたら一番いいんですけれども、そうは参りません。

人が生活する、そのことを真剣に行政も考えていただきたいし、一つの方策としては、工場誘致という問題もありますけれども、そういう問題も含めてやはりいい景色、いい環境の中で生活できるということは我々の望むところであり、希望するとことでありますけれども、一朝一夕にはいかならないと思っております。

したがって、子どもたちの教育についても、お互いに力をあわせて協調性を養うということも大変大事なことでございますし、これからの社会ではそうした共に助け合うという気持ちを十分に育てていかなければならないと思っております。以上です。

(藤田会長)

ありがとうございました。一通り皆様からご意見を頂戴いたしましたけれども、世代を超えて、厳しいと言われる現状認識については、ほぼみなさん同じ。ただ、厳しい中で次の社会に、自分たちの子どもたちに何を託していくのか、どういうかつらぎ町にしていくのかということについては、世代によってそれぞれいろいろなお考えもあ

るしということが感じられたかと思えます。

人口の問題についてありましたけれども、ご承知のように人口は日本で今1年間に60万人が減少する社会にきているわけで、一方で東京に一極集中していることを考えると、毎年鳥取県一県分の人口が日本国内からいなくなっているわけですので、どの農村もこれからもう一度高度成長期のようなというような思いが持てるような幻想は持たない方がいいし、持てないわけですね。

ただ、その時に定住人口だけにこだわっていただければいいのかと言えば、ひょっとしたらそうではないかもしれない。最近よく言われる、さっきも農村に住んでみたい人と出ていきたい人の mismatch みたいなものがあるんだというような話がありましたけれども、国もいってますように、少ない社会の中で人口の流動性をいかに高めていくような社会を作っていくことが必要なのかという点ですね。

大学でグリーンツーリズムということでいろんな話をしているんですけども、そういう動きで農山村に流動性を高めて、この地域で生活してみたいという人たちが増え始めているわけですね。

あるいは、直売所に買いに行きたい、そこでお金を落としたいという人が実際に増えてきているわけです。そういう意味では、アクセスの変化というのは従来とは違う形で受け止める必要もあるのではないかなと思います。

また跡継ぎの問題でいいますと、事務局の方からご説明いただきました、最後の社会動態の図ですね、岩出市や橋本市、大阪府にたくさん出て行っているよという話ですけども、これは東京へどんどん行っているわけではないので、最近の考え方としては、跡継ぎが近隣の市町村にとどまっているということの意味合いを非常に重視するようになってきているわけですね。いざという時には、実家に駆けつけてきて支えられるような仕組みをそれぞれが持っていくということが必要ではないかということも言われていますので、これからのかつらぎ町の人々の在り方というのを是非とも4次の計画の中に盛り込んでいく必要があるんだろうなという風に思います。

今日は1回目ということで、この基本的な考え方についてのご意見も、皆さんが日常お考えのことについて、お考えを披歴していただいたわけですけども、次回以降ですね、是非事務局にはですね、今の皆さんのそれぞれの団体の立場にとどまらない、世代として、あるいは一住民としての声を受け止めていただいた計画案をご提出いただいて、ここで審議をするという形にもっていただければなと思っていますので、事務局には汗をかいていただいて、お願い申し上げます。

それでは、時間も参りましたので、最後ということで、ご挨拶も兼ねてまとめを副会長の岡村さんをお願いしたいと思います。

8. 閉会

(岡村副会長)

今日は、第1回目の会合ということで、町の方から策定の方針等について詳しく説明を頂きました。これを見て聞いておりますと、大変難しいなというふうに思って聞

いておりました。

やはり、計画はすれど実現できないというのがこれまでの実情でございます。実現に向けてやりだすと色々な問題が横から発生してきてうまくいかないと、そういう状況があるわけでございます。

この先5年間の計画と、こういうことでございまして、先ほどから聞いておりますとかなり大きな課題が残ってございます。そういう中で、ほんとにこの半年の間でできるんだらうかというふうに心配をしているところでございます。

将来、この町がどうなっていくかということ私たちは、見守っていかなくてはならないと、そういう責務が我々の世代にあると思っております。先ほどから、学校の存続の問題、町長からは変わっていくここ3年程の間に、変わっていく環境の状況、いろいろお話を頂きました。これからはほんとはよくなっていくなというふうに思っております。

ただ、環境はよくなっても、先ほど皆さんから出ました、本当に若者が定住するようなまちになっていくんだらうかと、そして若者が住んでくれるような産業がどんな形で新しく生まれていくんだらうかと、農業だけには頼れないというのは事実でございます。そういう状況の中で、第1次産業をどんな形に変えていくか、第5次、6次産業に変えていくのかどうか、いや今までどおりの第1次産業で終わらせてしまうのかどうか、そのあたりがこれからの課題ではないかなと思っております。

今の機会に、27年に四郷の府県間トンネルが開通するまでの間に、基盤づくり、基礎づくりというのをきちんとして、大阪近辺から人を呼び込む施策というのが、非常に大事でなかろうかと思えます。

これは行政だけではなくて、われわれ住民が、地域に住む我々が、どんなに地域を変えていくかということを実際に考えていかないといけない時代と思っております。

ほんとに今日は、短い時間でしたが、成果があったのではないかなと思っております。聞いておりますと、事務局の方からは5、6回会合を開くということでございます。もし足らなかつたら2、3回増やすかもわからんよと、こういうハードなスケジュールになろうかと思えますが、どうぞ13名のメンバーが、できましたら全会出席ができますようお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はどうも御苦労さんでございました。ありがとうございました。